

2-7 今後の臨床発達心理士会のあり方について (自由記述)全回答

設問形式：今後の臨床発達心理士会のあり方について、その他にご意見があれば自由にお書きください。

※「その他に」とは設問2-6以外にという意味である。

以下の分類カテゴリーごとに記述回答本文を掲載する。なお、回答の概要（その特長や傾向）については報告書を参照願いたい。

- (1) 専門性発揮：「意義明確化」、「社会的認知のための外部広報」、「上位資格化や専門別資格認定」、「職務支援」(42件)
- (2) 研修会に関すること：「内容充実（専門性・広汎性）」、「受講しやすさ（オンライン、参加手続き）」(36件)
- (3) 資格者増対策：「専門性の発揮」「研修の充実」(10件)
- (4) 他団体研修会協力(3件)
- (5) 法人化：職能団体(4件)
- (6) 役員業務軽減(2件)、
- (7) その他(9件)

※読みやすさのために、句読点や、漢字表記などを編集側で修正している場合がある。

※具体的提案がある場合は、編集側でそのキーワードを太字（ないしゴシック体）にした。

※回答文中の()付き斜字体は編集者による補足である。

回答一覧

(1) 専門性発揮（意義明確化、社会的認知の外部広報、上位資格化や専門別資格認定、職務支援）

1) 資格の意義とその明確化(21件)

- ・臨床心理士の歴史にはもちろん、年月的には勝らないが、**発達心理士としての強み**をもっと強調していきたい。
- ・臨床発達心理士が社会的ニーズに応えるためには、資格の専門性や強みを向上することではないかと考えます。支部ごとで人数に開きもありますし、**地域によっては認知されていないことも事実と捉えています**。ですから専門性や認知の向上に努め、**この資格だからこそできることを深めていくことが必要ではないでしょうか**。
- ・臨床心理士との領域の違いを明確にすべきである。
- ・発達分野については、とても大切な分野であるので、今後も大切にしていきたいと思います。
- ・専門性の研鑽しかない。
- ・できれば**存続**していただきたいと思いますが、**独自性を出していかないと難しいのかな**と思います。そのために何がと聞かれると困りますが、せつかく立ち上げた会なので**存続**していただきたいと思います。
- ・臨床発達心理士の**独自性**は、今後、資格にどのように**位置づけられるのか**。**そのビジョン**を示して欲しい。

・公認心理師を取らない場合、臨床発達心理士の資格をもっていて意味があるのかどうか、気になっています。保育系の大学で仕事をしていますが、実務経験を積んだ保育士等にこの資格を勧めていいのかどうか、迷っています。

・臨床心理士会は、公認心理師と同化しているような印象（県の士会が公認心理師会の看板を上げた）。その中で、臨床発達心理士については、その存在そのものが見えなくなっている状況である。それまでも知名度は低い資格であったが、臨床場面では特に困ることはなかった。

・私の隣では若い臨床心理士の方が臨床と関係ない、と言われながら勉強をされているが、心理学の資格というと、臨床心理士が唯一無二の資格であるといわんばかりの勢いの発言をされることに少々嫌気がさしている。また、東海支部地域のスクールカウンセラーは臨床心理士会と県教委等が提携しており、SCの仕事は独占状態である。資格者団体の独占に当たらないか、と思えるほどである。東海支部の力が弱いだけですか。

・臨床発達心理士は、(自分もそうですが)必ずしも心理学部出身者ばかりでなく、教育分野の出身者も多いと思いますので、心理学全般というより「発達」と「教育・支援」のスペシャリストとしての資格の位置づけを望みます。

・臨床発達心理士はとても大切な資格だと思っています。0か1ということで決められない人間の変容を「発達」という視点で見るとは、困っている人にとって常に明るい希望を照らすことができるからです。

・臨床発達心理士は、発達分野の心理資格として、重要な資格であると考えています。私自身も、この資格を深めていきたいと思っています。今後も臨床発達心理士の資格やその良さがより一層、広まることをお祈りします。

・公認心理士とは違う臨床経験の多い会員の方々の、さらなる研修と、発展ができると考えています。

・心理学の分野は多岐にわたっているので、発達臨床的特性をベースにしているこの資格には意義があると思います。様々な分野との連携を図りつつ、独自性を持っていけたら良いのではないかと思います。

・「発達」と一口に言っても、様々な考え方がありますが、士会として「人の何を大事にするのか」の大前提を今一度検討してはどうかと思います。会員として、資質を高める・会員同士で高めあうという方が殆どであるとは思いますが、中には「臨床の際に、相手に対して人格を疑うような言葉」が聞かれることもあり、資格の在り方について考えさせられます。特別支援教育士のような、厳しい養成課程を経てきているわけではないので、会員の力量に差があるのは当然のことなので、「生涯発達の臨床者」としての特性が極められたら良いと思います。

・「発達」とは何かという大きな問いを抜きにして、「発達」の専門性は見えてこないかと思います。公認心理士等の専門性にプラスして、「発達」について正面から論じることが今後の臨床発達心理士には必要なのだと思います。発達検査ができる、乳幼児期に強いということだけではない、発達心理学の魅力を伝えていけるような資格になってほしいと願っています。

・独自性・独立性を目指すのではなく、公認心理士の資質・専門性の向上のため、発達臨床の専門分野を担う団体となるべき。

・発達領域のスペシフィックな職能集団としてのポジショニングの強化。

・公認心理師は非常に活躍範囲が広い資格と理解しています。臨床発達心理士は、心理業務の中で何に特化しているかを明示するとともに良い資格だと思っています。公認心理師がなんでもできるわけではないので、その差別化として臨床発達心理士の認定資格は残してもらいたいです。

・今後、公認心理師のみの資格を持つ心理職が増えていく可能性があり、発達臨床の専門性を持つことを明示するために求められる知識が得られるような研修があったり、会自体が社会的な知名度を持ち、信頼されている会であると有難いと思います。もともと、他職種の方が臨床経験を経て取得される場合も多く、公認心理師の資格ができる以前は、自分のように臨床発達心理士の資格のみを持つ人は少ないと思います。臨床発達心理士のみを保有していることへの不安から、社会福祉士など他の領域の資格を取得される方もいるようにも感じます。(もちろん個人の専門性を磨くことが最も重要だと思いますが)他の領域の資格を持っていなくても社会的に信頼されるような資格であると有難いと感じます。

2) この資格の意義の広報 (10件)

・発達を軸としての専門性の意義と重要性をもっと発信いただければと思います。特に乳幼児期を対象とした支援の専門性は臨床発達心理士が適任だと思います。保育現場や保健所等の発達相談、療育相談などの現場は特に思います。

・根本的なこととして、発達心理学の基礎のキソなど、一般の方にも分かるようなコンテンツ(動画や漫画、リーフレットなど)の作成と公開などをとおして、人の発達、心の発達に対する社会全体のリテラシー向上に寄与して欲しいです。今は大学の講義でも、心理系はほぼすべて海外の大学や各種団体が作っているコンテンツを使っています。情報発信によ

って、自ずと知名度も上がると思います。最近、「発達」＝「障がい」（？発達支援＝障害児者支援）というイメージを持たれている現場の教師など少なからずいるようです。原点回帰が大事だと思います。

- ・支援が必要な方が、どこに相談すれば良いかわかり、必要な支援が届くような啓発、情報提供の仕組みの構築や他の心理士などの資格者との協働

- ・東京都の巡回相談心理士の業務の意義は高いので、個人情報に留意したうえで、研究としてまとめたり発信したりすることは、巡回相談心理士全体の専門性や実践力があがることを委託先の方々へもアピールできるとよいと思います。

- ・発達に特化した分野の重要性とその必要性が広く認知されるような取り組み。特に、療育、教育分野での拡充と広報。

- ・資格名が表しているように、発達の観点ということがこの資格の一つの特性であろうと思われる。ところが、研修等においても、どこまで発達という現象に迫っているのか疑問の余地はある。対内、対外ともに、この発達の観点という特性をどのようにアピールするのか伝えていくのだろうか。現状、足りてはいないであろうと思われる。

- ・発達臨床の専門であることを世間一般に周知されるようになることを希望します。

- ・臨床心理士に比べ、知られていないこと、低くみられていることが残念です。もっと広く専門性について理解が得られ、活躍する人の待遇や賃金が上がると良いと思います。

- ・例えばスクールカウンセラーとして学校での支援を行うのに、発達のことについて詳しく、しかも学校現場での臨床経験のある教員経験のある臨床発達心理士が良いのではないかと思う。学校の文化のことをよく理解している心理士がチーム学校の一員として子どもたちのために力を尽くすことができると良いと思う。そういった意味で2-6にあった外部広報がすすむと良いと考える。

- ・心理の世界では認知度があるものの、医療機関ではまだまだ認知度の低さがあり外部広報には力を注いでいかれたらと感じます。

3) 上位資格化・専門認定制度化（5件）

- ・心理士資格の上位資格として、広報、研修の充実を図って欲しい。

- ・公認心理師資格を取得した上での上位資格としての位置付けをすることで、内外での発達支援の専門性を確保していけるように思っています。

- ・今後、公認心理師と臨床発達心理士と両方の資格取得者が増加する中で、特に発達を専門とする心理士であるという点を強調していくことが、臨床発達心理士という資格が生き残る道のように思っています。たとえば、医師免許おける領域ごとに専門医の資格（認定医）の形のように、臨床発達心理士の資格も考えられるのではないかと捉えています。個人的には、臨床発達心理士の資格に愛着があるので、スクールカウンセラーのように特定の活躍の場、いわゆる職域を確保していければと考えております。

- ・認定についてはSVだけでなく、発達検査についても認定制度を設けることは喫緊の課題と考える。臨床発達心理士としてテストを行なう場合は必ず認定を取ること、それによって質を担保し、社会の信頼を得るようにすること。他にも発達領域の専門性については認定制度化して質を担保すること。

- ・心理士の中で発達に特化されている事を教育機関にご理解頂けるように、内部の研修内容の充実を図り、研鑽を積む必要があると思います。研修会に於いてはディスカッションやワークや取り組みが多くなったと思いますが、お互い質が低いもの同士のやり取りでは、形だけで向上したと思えません。テーマを限定し、例えば合理的配慮資料作成や、知能検査の解釈などですが、複数回にわたり実践し、研修を外部機関と連携しながら、例えば教育委員会の方に認めて頂いたような形、精神科医が認めてもらえるような形で、質を持った人へのみ、内部の研修修了書を発行するような、徹底した質の向上が必要だと思います。まだまだ世間では心理士の信用性は欠けていると感じます。また、ワークショップでの研修会は多岐に渡り、専門性を特化させるスタイルのものは少ないと思います。公認心理師か今後広がっても、臨床発達心理士は専門性が著しく高くなれば世間で信用性も高まり、この資格を有したいと思う方も増えると思います。しつこく、仕方なく研修に参加されている方とのワークショップは、無意味です。また、そのようなとりあえず資格を持っているというような、質の低い方が有する資格ならば、価値はなく必要性が無くなっていくと感じています。

4) 専門職務支援（6件）

- ・これまで以上に、臨床発達心理士のオリジナリティの研鑽の場として、大いにリーダーシップを発揮していただきたい。また職能団体として、臨床発達心理士の職務状況や内容に関連するバックアップを期待します。

・公認心理師の資格は、広く浅く汎用性のあるものとして、突出した専門性ではないと考える。であるならば、民間資格であっても「**発達**の専門家」である**臨床発達心理士**の強さや良さを積極的にアピールし、**研修の場や活躍の場を確保し**、会員の方々に存分に活躍できるように保障していく必要がある。

・資格取得後のキャリアプランのサポートなど、個々人の特徴を活かして社会に貢献できるような何か活動をお願いしたいです。

・研修以外で専門性の担保をどのようにしていくのか。臨床発達心理士が活動できる場の確保はできるのか。

・会員が、**発達臨床の専門家であり続けることをサポートするための士会**であってほしい。

・取得当初は待遇の改善があればいいと考えていたが、現在まで全く改善がないので、あまり期待はしていないため思いつかない。

(2) 研修会に関すること：内容充実（専門性・広汎性）、受講しやすさ（オンライン、参加手続き）

1) 研修会への期待や意義（8件）

・学びの場を提供していただき感謝しています。

・心理職専門以外の方で資格を持つ人もいると思うので、研修は幅広く回数を多くしていただけるとありがたい。複雑で予想もしていないことが起きる現代において、様々な方に支援できる人材は必要だと思うので、その受け皿として、知識や技術を学ぶ機会ももつ団体でいてほしい。

・研修制度の一層の充実

・取得してから、研修を受けることで新たな知識や気づきはあったので、今後も研修は必要だと思う。

・公認心理師は更新がない。その他の心理系資格は更新がある。いわば、公認心理師以外の資格が更新制度によって質を担保しているのではないかと考えられる。資格更新のためとはいえ、今後も新しい知見をえるためにも研修は続けていただきたい。

・臨床発達心理士会の研修は いつも最前線の情報を得ることができ、現場で役立っています。多彩な講師陣を公認心理師会含めご提供くだされば、現場が充実すると思います。

・様々な職種・職場で勤務する会員にとって、今後も多くのことを学べる研修会の企画があればいいと思う。

・講習会の充実を期待します。

2) 内容充実（14件）

・資格取得のための研修内容は本当に充実していました。資格取得後も変わらず研修会がありそこでの**同じ資格を持った方との出会い**は私の支えになっています。その部分だけは変わらずにお願いしたいと思っています。

・発達臨床の専門性が更に充実し、広く理解されるために、発達臨床の研修が更に充実して行ってほしいです。

・今後も内部研修が充実しているようであれば継続したい。

・**生涯発達**の観点から、これからも研修機会等提供してほしい。

・臨床発達心理士の対象は広く、内容は多岐にわたる。そのため自由に幅広い研修ができる。これが維持されるといいと思う。

・**発達障害**等、特別支援教育の対象であった児童生徒の**就労後の課題**について、**メンタルヘルスサポート**も含めて、**生涯発達支援**の観点から、研究や研修を進めて欲しい。

・現在の研修は大変勉強になります。**発達支援学会の講義もポイント**になると嬉しいです。

・発達理論や発達心理学的な視点に基づいた臨床活動ができるように、士会員の**研修や事例検討などでの交流**を大切にすべきではないか。臨床発達心理士資格をもち、士会に所属するメリットが、質の担保(研修体制の充実)であってほしい。

- ・資格取得後の研修のバリエーションが狭く、固定化しているように思います。(なのでなかなか研修に足が向きません・・・) 公認心理師が広い領域をカバーしているのですが、**発達・教育に関する分野のなかでもう少し幅の広い知識や「技術」**も学べる機会が必要だと思います。バリエーションを広く、オンライン研修になることを期待したいです。
- ・学会の認定であるため良い資格と考えています。質の高い発達支援が出来るように研鑽機会があればと思います。
- ・現場で生かせるような研修を引き続きよろしくお願い致します。
- ・公認心理士を受験して思うことは、あまりにも知識量が違います。知識があればいい対応等ができるわけではありませんが、受験勉強をしながら役立つこともたくさんありました。今までも学びに力を入れていると実感しています。今後もそうであってほしいと思っています。
- ・検査だけではなく、**専門的な研究部署**があれば、入りたいです。 例えば、**描画や児童や乳幼児の健診**など。
- ・ふれあいペアレントトレーニングのように、**エビデンスのないものを推奨すべきではない**。

3) 受講しやすさ：オンライン開催、回数（14件）

- ・オンラインの研修をもっと増やしてほしい。抽選で漏れることもあり、ポイント獲得に苦労しています。
- ・自分自身が心理士の仕事をしていく上での根拠としている資格です。それ以上でもそれ以下でもありません。資格維持のための研修会は充実していただきたいのですが、希望者を抽選で選定する必要があるほど人気が高いようであれば、**回数を増やす**など、多くの人に学びの機会を確保してください。オンライン研修が始まって、今後はあまり人数制限を気にすることなく実施できるように感じています。たくさんのオンライン研修が受けられるようになるとよいと思います。
- ・オンラインでの研修が増えるとありがたい。
- ・数多くの研修を行ってくださってはいるが、地方在住では参加できないことが多く、選択肢が少ない。今年度のようなリモート研修を今後も継続してほしい。
- ・研修会受講の時間的なしばりが厳しすぎると思います。コロナ禍が落ち着いたとしても、今回のようなオンラインのシステムを活用した研修会を継続すべきであると考えます。できれば、オンラインと実際の会場での研修会を同時に行い、受講しやすい方を選択できればありがたいです。
- ・沖縄在住につき、研修参加がかなり負担。オンラインでの研修拡充を希望。
- ・コロナ禍ではありますが、オンラインを利用し、例年と同じような研修をしてほしい。
- ・支部の中でも、中心地での活動はまだ盛んなようですが、**地方は年に1回研修会があればいい方**です。支部内でも地域格差を感じます。地方からも参加しやすい研修会を企画していただけたら大変有り難いです。奇しくもリモート研修会が主流になっている今、恩恵を感じているところです。
- ・コロナ禍ではあるので、難しい面がありますが、情報を共有し、学ぶ機会を提供していただきたいと思います。
- ・研修は遠隔地の者が参加しやすいように、オンライン研修も継続してほしいし、資格がなく発達臨床に関心がある方向けの公開講座もあると嬉しいです。
- ・遠方者が講習会に参加しやすいようにオンライン講義を積極的に取り入れてほしい。合格後の倫理研修についても同様で開催回数が少なく、首都圏に偏っているので地方の者には参加するのがむずかしい。
- ・先日受講した web 研修は、充実した内容で、メールなどの事務関係や、機器の調整もしっかりしていて、とても良かったです。全国どこからでも受講できますし、ぜひ web 研修を継続してください。ただ、申し込みもポイント登録も web 上でできるにもかかわらず、研修費の振り込みだけは郵便局で振込用紙によるもののみというのが不便でした。ネット上で、クレジットカード決済ができるように改善していただきたいと思いました。
- ・研修会の多様性と回数を増やしてほしい。ズームでの**研修は抽選ではなく**、日程を増やして、希望者全員受けられるようにしてほしい。
- い。
- ・コロナ渦にあって、研修の在り方が問われているかと思いますが、こんな時だからこそその研修等、リモートでない発信の工夫を願いたい。

(3) 資格者増対策：取得の手続き簡略化、更新制度（10件）

- ・公認心理師が成立したことにより、当該資格取得希望者はジリ貧になる可能性もあり、資格をとりやすくする仕組みを早急に作る必要がある。
- ・一次審査に提出する書類があまりにも煩雑すぎる。シラパスの内容を認めるために、大学教員の押印が必要という仕組みも辞めたほうが良い。
- ・現在の1次審査を続けるならば、一次審査合格者は、(保育士のように)3年間は一次試験パスとするなど、柔軟な仕組みが必要
- ・当該資格取得できる大学・大学院が減っていることが大きな懸念材料である。発達の視点を持った研究者が必ずしも多くないという現状もあるが、認定業務の煩雑さも影響しているのではないかと。年々忙しくなる大学側の配慮及び審査業務の効率化という点でも、審査要件を緩和するとか、大学側がカリキュラムを大幅にいじらなくても済むような対応を考えるなど、大胆な改革も必要。
- ・資格取得者を大胆に拡大したいならば、書類審査をごくごく簡単にし、一律で認定講習を受け、全員に筆記試験を課すといった改革も必要。
- ・LD学会の専門誌に、なぜLD学会が成功したかが載っていました（なぜ会員数が急増したか）。それを参照するのが良いと思います。
- ・有資格者になるため、なってからも様々な手続きが煩雑で嫌気がさすことがあります。受験の説明会参加に始まり資格更新の研修会に至るまで。その煩雑さに耐えられる人を有資格者にしたいのであれば仕方ないですが、有資格者を増やしたいのであれば、事務手続きや実務経験年数の計算等ある意味「いけず」なやり方ではなく、簡便にできるようにすべきだと思います。とても重要な役割を担う資格だと思っているだけに、本筋からずれているところで受験者が敬遠するような体制は変更していただけると受験者数が増えると思います。（私の周辺でもよく愚痴を聞きます）
- ・公認心理士の勉強中ですが、受かったあとの臨床発達心理士資格取得までの条件を考えると脱力します。臨床発達心理士の取得は本当に大変でしたが、その後の仕事にも非常に有益だったと感じていますし、受けてよかったですし、取れたことも私の自信になっています。今後の方は公認心理士経由の資格取得が大きな流れになるとは思いますが、臨床発達心理士資格の価値そのものが下がるのではと危惧しています。
- ・本来は、事例報告書を記載するという課題を課すことが、最もその人の実力を把握できる。審査の手間はかかるが、事例報告書を記載する機会は残した方が良い。
- ・幼稚園教諭や保育士が臨床発達心理士の資格取得に向けて取り組みたいという希望を耳にする。しかし、保育幼児教育関係者の多くは短大卒なので、新制度になってからは目指すことができなくなってしまった。保育士や幼稚園教諭も臨床発達心理士を目指すことができるように制度を改めることが必要だと感じる。

(4) 他団体研修会協力（3件）

- ・公認心理師協会に限らず、他団体との協力による研修会開催に協力していくことがよいと思います。
- ・臨床心理士会と融合
- ・公認心理師協会が主催する発達・教育分野にも大いに協力し、資格更新のためのポイント発行の対象としてほしい。

(5) 法人化：職能団体（4件）

- ・機構から独立した職能団体として法人化すべきである。
- ・法人化して職能団体としての地位を確立し、より活躍の場を増やすべきだ。
- ・法人化をお進めいただけるものと思います。
- ・職能団体として法人格を取り、しっかりと支援の主体となったり、支援に従事している会員を支える体制をとるべきだ。
- ・現在、公認心理師の職能団体は、心理臨床学会系と医療系に分かれ一本化されていない。士会は一本化されるまで旗色

を鮮明にすべきでない。

(6) 役員業務軽減 (2件)

- ・ほぼボランティアである**認定委員業務**があまりにも過酷すぎる。他団体のように、有能な事務職を増やし、事務局対応を増やすべきである。このままでは、だれかが過労で倒れるか、認定委員の担い手がなくなる。
- ・コロナ禍を機に、**全国オンライン一元化**により、資格更新研修や支部毎の落差と、支部運営者の負担軽減をしてはどうか。合理化を図り、団体の基盤を確たるものにし、資格の質を高め、ステイタスとなるよう、自分も努力したい。

(7) その他 (9件)

- ・事例報告書執筆に際し、スーパーバイザーが適切な指導ができていない案件が多い。
- ・SVに力を入れ**後進のスキルアップ**を行っていただきたいです。
- ・臨床発達心理士会は、不必要であると思うので、2-6にあてはまるものがない。何故必須項目なのか。無理やり選ばせたようだ。2-6を選ばないと、送信できないので、仕方なく選んだ。
- ・心理臨床という視点から見ても、学校教育の視点から見ても、結局は関係性、あるいは、社会のあり方、環境の問題かなと思っている。
- ・**会費**に対して、やはり**メリット**がなければ、続けていくことはむずかしいと思う。
- ・**更新制度**をなくして欲しい。研修が少なく高すぎる。仕事**が更新と直結する方は良いがそうでない分野の方のことも合理的に更新できる**よう考慮して欲しい。
- ・年会費に見合った**受益**が少ない。**内部研修や外部広報の充実**も求める。
- ・約款はどうなっているのでしょうか？ 1万人に満たない組織とはいえ、会の運営はどのようになっているのでしょうか？ 財務等含めて揺らぎを感じています。
- ・臨床発達心理士も、国家資格にしたらいいと思います。